

令和 8 年度
全国学力・学習状況調査
～調査結果と指導改善のポイント～
令和 8 年 9 月 釧路市教育委員会

今年度実施された「令和 8 年度全国学力・学習状況調査」について、文部科学省が 8 月 3 日（月）に結果を公表した。

この資料は、本調査の釧路市における市立小・中学校及び義務教育学校の児童生徒の学力や学習状況を示すほか、調査結果から読み取ることのできる課題等进行分析し、各教科における学習指導の改善に向けたポイント等を示したものである。

《調査の概要》

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査の対象とする児童生徒

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒が対象

ア 小学校調査 小学校第 6 学年，義務教育学校第 6 学年

イ 中学校調査 中学校第 3 学年，義務教育学校第 9 学年

（３）調査事項

ア 児童生徒に対する調査

（ア）教科に関する調査〔国語，算数・数学，英語（中学校）〕

（イ）質問調査（児童生徒に対する学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査）

イ 学校質問調査

（ア）学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

（４）調査問題の内容及び結果

教科に関する調査問題は、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、学習指導要領に示された各教科の目標及び内容等に基づいて作成されている。なお、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理は見直され、平成 31 年度より知識・活用を一体的に問う調査問題となっている。

国からは、調査結果について、学力面において細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないとして、平均正答率の小数点以下を四捨五入した整数値で結果が提供されているが、本資料においては、釧路市の児童生徒の学力や学習状況を過去の結果と継続的に比較するため、提供されたデータをもとに独自に算出した小数値で釧路市の状況を示している。

《集計対象 学校数・児童生徒数》

	小学校調査		中学校調査	
	集計対象学校数	集計対象児童数	集計対象学校数	集計対象生徒数
全国（公立）	18,077 校	922,778 人	9,146 校	842,491 人
釧路市立	26 校	830 人	16 校	890 人

※集計対象児童生徒数・学校数は、4 月 23 日に調査を実施した数である。

集計対象児童生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

I 本市の状況 ～教科に関する調査結果の概要～

- 小学校では、国語において全国平均を上回っている。算数においては全道平均を上回っているものの、全国平均を下回っている。
- 中学校では、3教科とも全国平均を下回っている。

平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア）

単位（％）

英語については平均IRTスコアのため単位なし

小学校	国語	算数
全国	60.9	56.4
全道	60	54
釧路市立	62 [61.7]	55 [54.8]
全道比較		
R8	+1.7	+0.8
	+0.8	-1.6
R7	+3.4	-1.2
R6	+4.1	-0.4
R5	+0.6	-2.4
R4	-0.7	-1.7
R3	+1.1	-2.4
R2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施	
R1	+2.0	-1.2

中学校	国語	数学	英語
全国	63.9	57.0	499
全道	63	55	490
釧路市立	62 [61.9]	54 [53.7]	472
全道比較			
R8	-1.1	-1.3	-18
	-2.0	-3.3	-27
R7	-0.7	-4.0	-
R6	-1.3	-2.6	-
R5	-1.1	-3.1	-3.8
R4	-1.0	-4.7	-
R3	-2.1	-3.9	-
R2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施		
R1	-4.4	-5.7	-5.6

※国は、北海道及び市の平均正答率を整数値で提供。

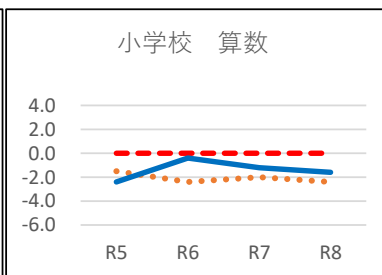
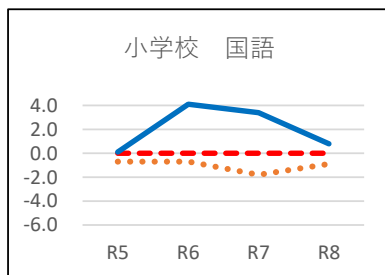
〔 〕内の小数値は、北海道教育委員会及び釧路市教育委員会が国から提供されたデータをもとに、それぞれ独自に算出した数値である。なお、全国及び全道比較については、独自に算出した数値を比較したものである。

※中学校英語については、平均正答率ではなく、平均IRTスコアを記載。

(以下参考数値)					
		基礎	活用	基礎	活用
全国との比較	H30	+0.3	-1.1	-0.9	-3.4
	H29	-1.1	-1.8	-1.2	-4.6
	H28	+0.2	-1.3	-1.5	-2.8
	H27	-1.5	-2.3	-2.2	-3.4
	H26	+0.7	-4.5	-1.3	-5.9
	H25	-3.4	-4.0	-1.3	-5.7
	H24	-5.0	-4.5	-3.7	-4.8
	H22	-5.0	-7.9	-9.6	-6.3

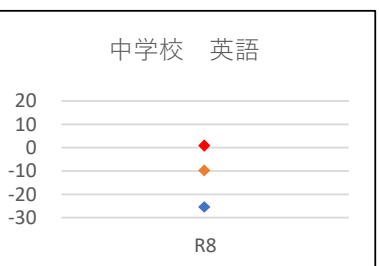
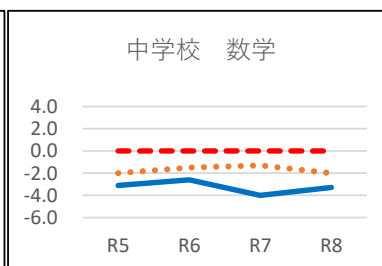
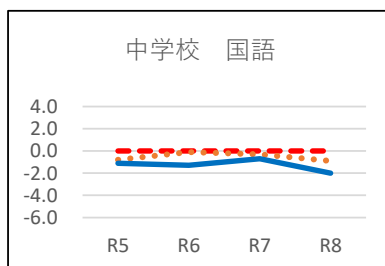
(以下参考数値)					
		基礎	活用	基礎	活用
全国との比較	H30	-0.4	-2.3	-4.2	-4.8
	H29	-2.4	-2.5	-2.5	-3.9
	H28	-1.7	-5.2	-2.1	-3.3
	H27	-1.6	-2.1	-2.5	-3.6
	H26	+0.3	-3.3	-1.6	-3.7
	H25	-2.2	-5.2	-4.5	-6.8
	H24	-2.2	-1.0	-4.3	-6.2
	H22	-1.6	-5.7	-5.7	-7.0

全国平均との比較推移



※R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施
※中学校英語については、R1年度とR5年度に実施

--- 全国
..... 全道
—— 釧路市

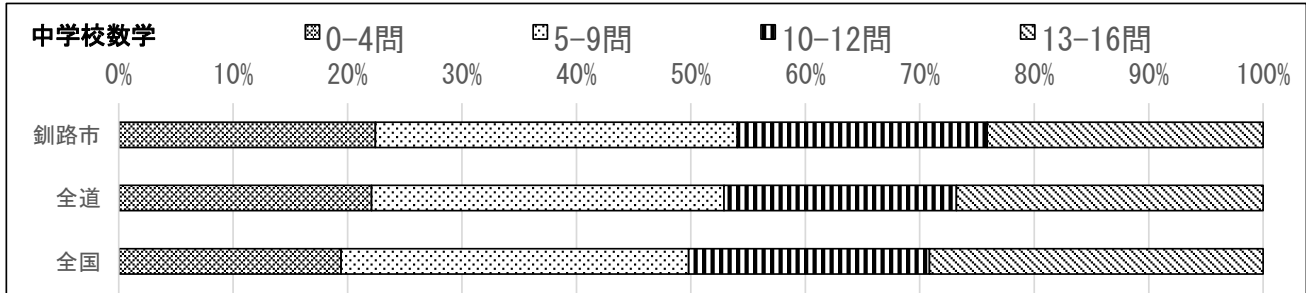
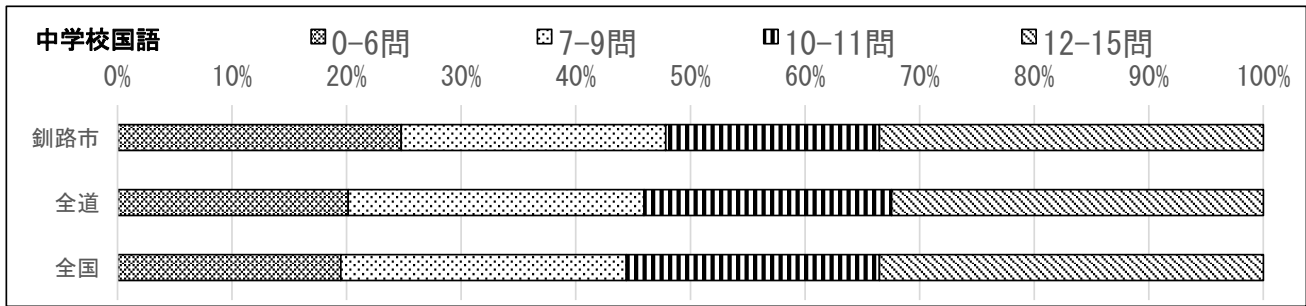
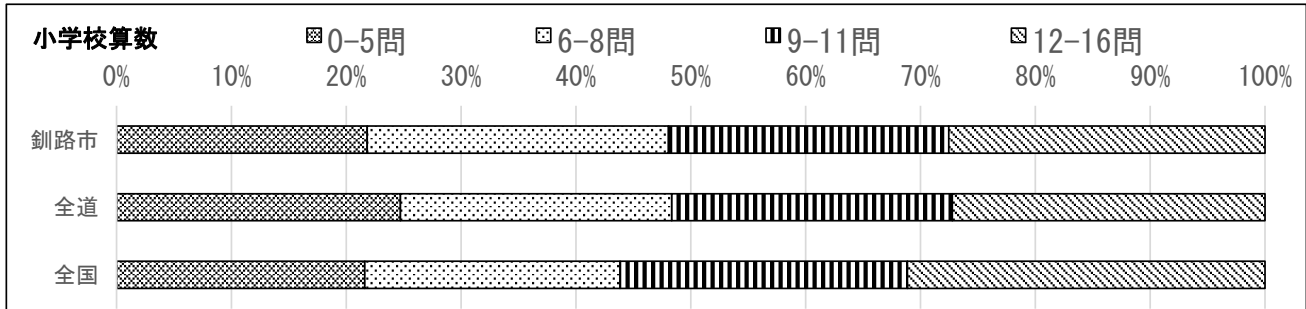
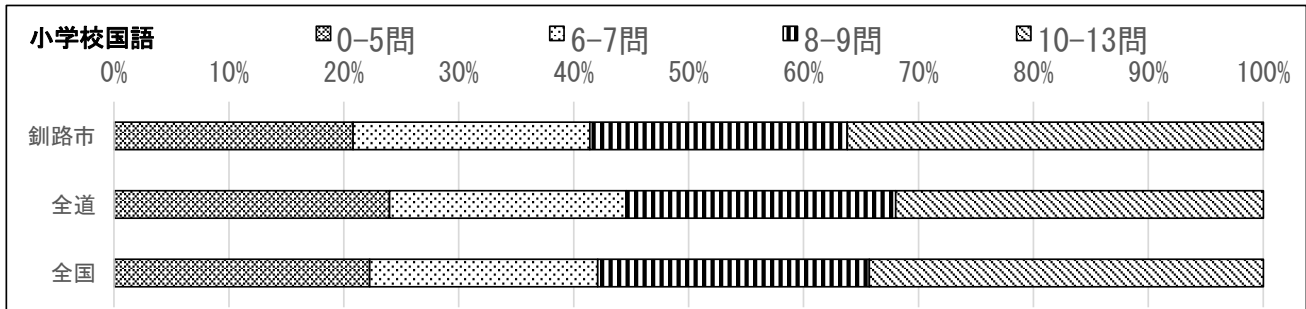


※中学校英語は平均IRTスコアの差

【正答数ごとの層分布・IRTバンド分布(中学校英語のみ)比較】

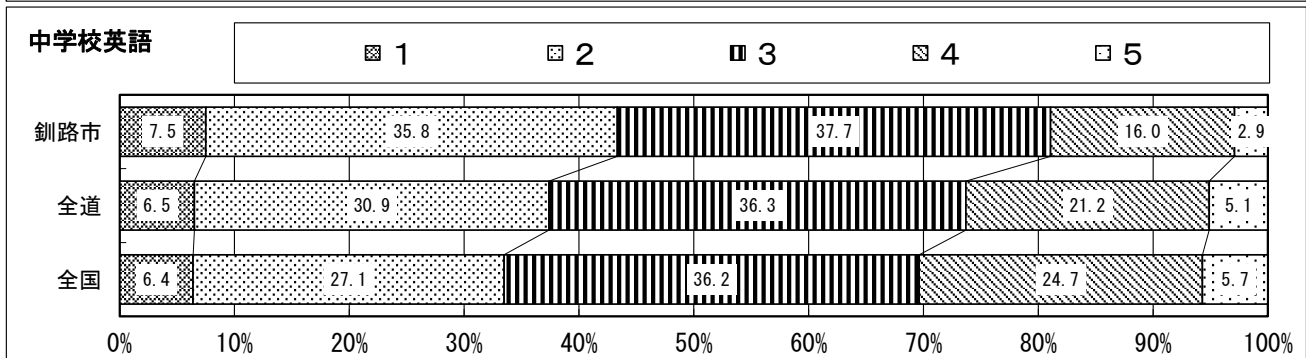
正答数の層分布

・正答数ごとの層分布は、あらかじめ定められた正答数の範囲（例えば「0-5問」「6-7問」など）に、どれくらいの割合の児童生徒が分布しているかを示したもの。



IRTバンド分布

・IRTスコアは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
 ・IRTバンドは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものであり、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。



【全国平均との比較達成状況一覧】

小学校及び義務教育学校前期課程	26校	$P < -5$	$-5 \leq P < -3$	$-3 \leq P < 0$	$0 \leq P < 3$	$3 \leq P < 5$	$5 \leq P$
	国語	2校	3校	3校	10校	2校	6校
		(3校)	(0校)	(4校)	(6校)	(3校)	(10校)
	算数	7校	1校	9校	4校	1校	4校
		(7校)	(2校)	(7校)	(3校)	(1校)	(6校)

* () の校数は、国語、算数は令和7年度との比較

中学校及び義務教育学校後期課程	15校	$P < -5$	$-5 \leq P < -3$	$-3 \leq P < 0$	$0 \leq P < 3$	$3 \leq P < 5$	$5 \leq P$
	国語	3校	1校	2校	5校	1校	3校
		(2校)	(5校)	(2校)	(2校)	(2校)	(2校)
	数学	2校	4校	4校	1校	0校	4校
		(7校)	(1校)	(3校)	(0校)	(1校)	(3校)

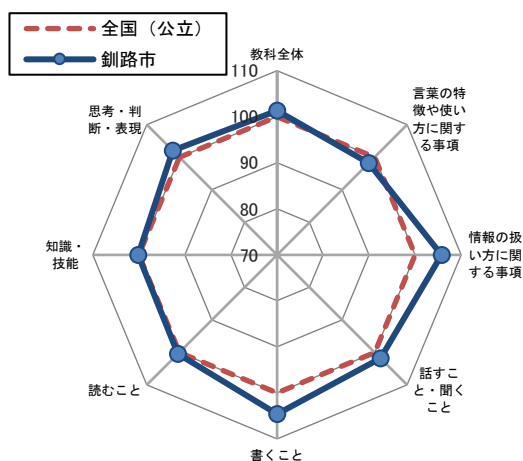
* () の校数は、国語、数学は令和7年度との比較

Ⅱ 各教科の状況と指導改善のポイント

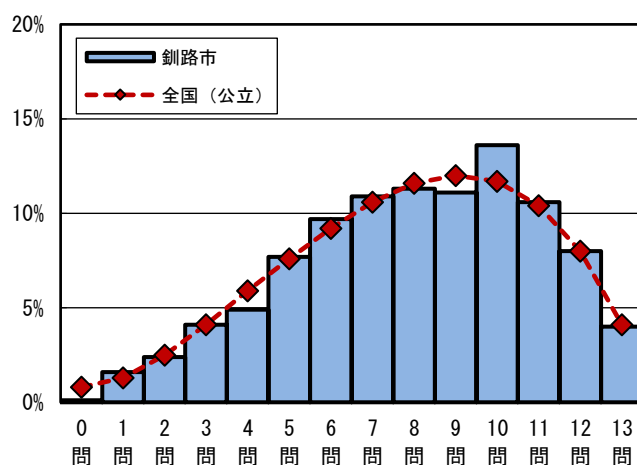
1 小学校国語

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	829	8.0 / 13	62 [61.7]	8.0	2.9
全国（公立）	922,411	7.9 / 13	60.9	8.0	3.0

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇「傍線部①，②，③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する」設問（第5学年及び第6学年「情報の扱いに関する事項」の内容）は，正答率60.3％（全国平均55.6％）である。〔問題番号3二〕
- ◇「【文章】を読んで考えたことを，自分の経験と結び付けてまとめて書く」設問（第5学年及び第6学年「読むこと」の内容）は，正答率80.6％（全国平均76.4％）である。〔問題番号3三（2）〕
- ◆「花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する」設問（第5学年及び第6学年「書くこと」の内容）は，正答率55.4％（全国平均57.9％）である。〔問題番号2一〕
- ◆「【花山さんの文章の一部】の下線部イを，漢字を使って書き直す（ふしぎ）」設問（第5学年及び第6学年「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の内容）は，正答率37.9％（全国平均45.2％）である。〔問題番号2三イ〕
- ◆「【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する」設問（第5学年及び第6学年「読むこと」の内容）は，正答率51.9％（全国平均55.5％）である。〔問題番号3三（1）〕

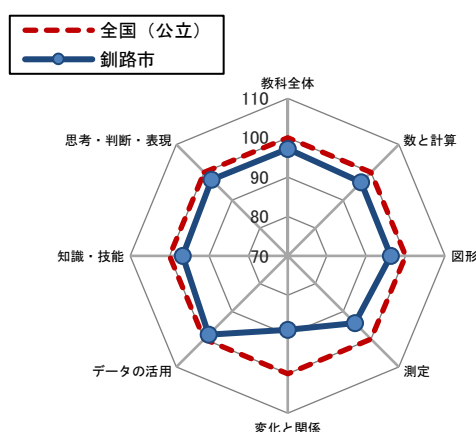
【今後の指導について】

- 筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考える指導の充実
 - ・筋道の通った文章を書くために，「考えと理由や事例」，「原因と結果」，「疑問と解決」などの事柄のつながりや配列を意識させ，文章全体の構成や筋道を整えることができるように指導しましょう。
- 文や文章の中で，漢字を正しく使う指導の充実
 - ・漢字を正しく使う習慣を身に付けるために，前学年までに配当されている漢字や当該学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使おうとすることが重要です。その際，同音異義語に注意するなど，漢字の意味を考えて使うことができるように指導しましょう。
- 目的に応じて，必要な情報を見付ける指導の充実
 - ・目的に応じて必要な情報を見付けるために，書き手の主張を捉えたり，知りたいことを調べたりするなど読書の目的に応じて，文章の中から必要な情報を取捨選択したり，整理・再構成したりすることができるように指導しましょう。

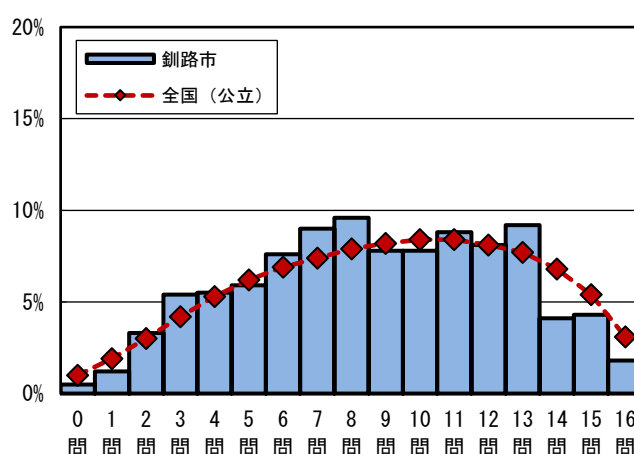
2 小学校算数

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	830	8.7 / 16	55 [54.8]	9.0	3.8
全国（公立）	922,778	9.0 / 16	56.4	9.0	4.0

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】（◇正答率が高い設問◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇「一辺が8 cmの立方体の体積を求める式を書く」設問（第5学年「B図形」の内容）は、正答率81.4%（全国平均72.7%）である。〔問題番号1（1）〕
- ◇「全員分のアンケートが集計されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く」設問（第3学年「Dデータの活用」の内容）は、正答率60.4%（全国平均56.2%）である。〔問題番号4（1）〕
- ◆「1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く」設問（第5学年「B図形」の内容）は、正答率31.8%（全国平均40.1%）である。〔問題番号1〕
- ◆「イシガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるとき、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く」設問（第5学年「C変化と関係」の内容）は、正答率17.0%（全国平均19.3%）である。〔問題番号2（2）〕
- ◆「二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半にあやとりに参加する人数を書く」設問（第4学年「Dデータの活用」の内容）は、正答率14.2%（全国平均17.9%）である。〔問題番号4（3）〕

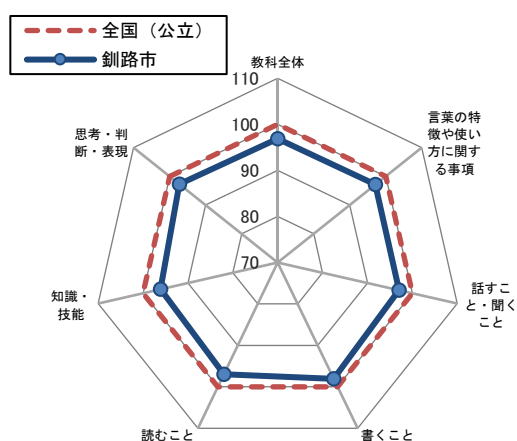
【今後の指導について】

- 立体の体積について単位や測定の意味を捉え直し、公式の適用だけでなく体積の構造的な意味を理解する指導の充実
 - ・体積も単位の大きさの「幾つ分」として数値化できることを理解させ、具体物や見取図を通して単位体積の立方体が敷き詰められた個数と体積とを結び付けて捉えることができるように指導しましょう。
- 基準量・比較量・割合の関係や異種の二つの量の割合に着目し、数直線等の図を活用して問題場면을数理的に考察・立式する指導の充実
 - ・百分率を含む割合の問題場面において、数直線などの図を用いて「基準量」「比較量」「割合」の関係を視覚的に整理させるとともに、単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を正しく捉えて判断・立式することができるように指導しましょう。
- 目的に応じてデータを二つの観点から分類整理し、二次元の表から必要な情報を的確に読み取って考察する指導の充実
 - ・解決したい問題に合わせて観点を決め、データを二次元の表に分類整理させるとともに、読み取りたい条件に合わせて表の縦と横の項目を順序よく追い、必要な数値を的確に読み取って判断の根拠を説明することができるように指導しましょう。

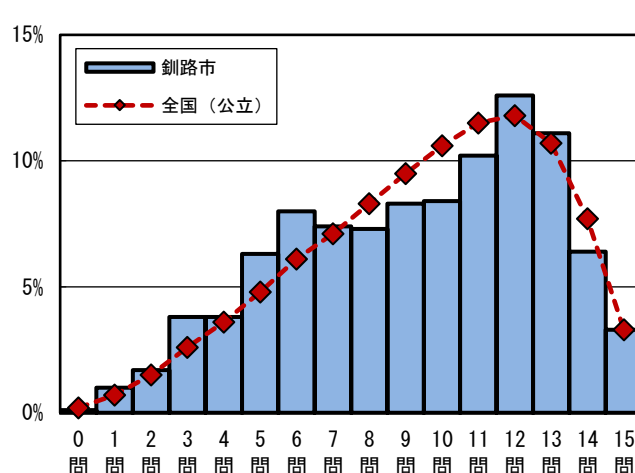
3 中学校国語

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	888	9.3 / 15	62 [61.9]	10.0	3.5
全国（公立）	841, 873	9.6 / 15	63.9	10.0	3.3

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇「文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する」設問（第2学年「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の内容）は、正答率42.0%（全国平均39.8%）である。〔問題番号3一〕
- ◇「書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く」設問（第2学年「書くこと」の内容）は、正答率45.9%（全国平均45.0%）である。〔問題番号3四〕
- ◆「話し合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する」設問（第2学年「情報の扱い方にに関する事項」の内容）は、正答率64.5%（全国平均70.4%）である。〔問題番号2三〕
- ◆「話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く」設問（第2学年「話すこと・聞くこと」の内容）は、正答率49.1%（全国平均52.7%）である。また、無解答率は、19.6%（全国平均14.7%）である。〔問題番号2四〕
- ◆「国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す」設問（第1学年「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の内容）は、正答率31.8%（全国平均35.2%）である。また、無解答率は、24.1%（全国平均19.8%）である。〔問題番号4二〕

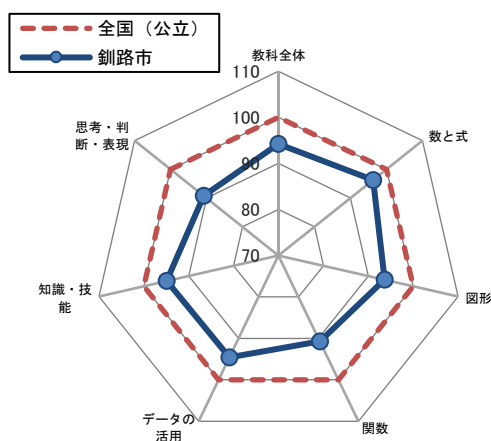
【今後の指導について】

- 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使う指導の充実
 - ・ 話し合いに含まれる情報を整理し、関係を捉えることは、内容の理解や円滑な進行につながります。情報の整理の仕方を理解し、実際の話し合いの中で使えるように指導しましょう。
- 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる指導の充実
 - ・ 互いを尊重して話し合うには、相手の立場や意見の背景を理解しながら対話することが重要です。一方的な主張ではなく、意見の共通点や相違点、新たな提案を踏まえて議論を深め、一定の結論へと導くような発言ができるように指導しましょう。
- 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える指導の充実
 - ・ 語句を適切に使うためには、辞書的な意味を踏まえた上で、文脈における具体的な意味や役割を捉えることが重要です。文章中の語句と語句との関係を捉え、文章の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を確かにしたり、深めたりしていくように指導しましょう。

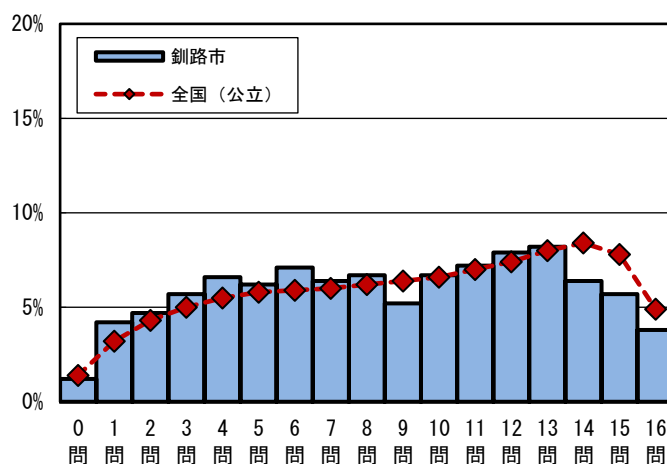
4 中学校数学

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	890	8.6 / 16	54 [53.7]	9.0	4.4
全国（公立）	842,491	9.1 / 16	57.0	10.0	4.5

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇ 「 $7x + 9 - 5x + 7x^2 + 2x$ から、 $7x$ の同類項をすべて書く」設問（第2学年「A数と式」の内容）は、正答率73.6%（全国平均70.5%）である。[問題番号2]
- ◇ 「四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く」設問（第2学年「B図形」の内容）は、正答率52.0%（全国平均49.1%）である。[問題番号3]
- ◆ 「反比例の表において、 x の値が-3のときの y の値を求める」設問（第2学年「C関数」の内容）は、正答率45.6%（全国平均55.3%）である。[問題番号4]
- ◆ 「大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める」設問（第2学年「Dデータの活用」の内容）は、正答率53.3%（全国平均60.2%）である。[問題番号5]
- ◆ 「図において、 $AB=AP$ ， $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する」設問（第2学年「B図形」の内容）は、正答率38.5%（全国平均46.1%）であり、無解答率は、27.6%（全国平均22.2%）である。[問題番号8（2）]

【今後の指導について】

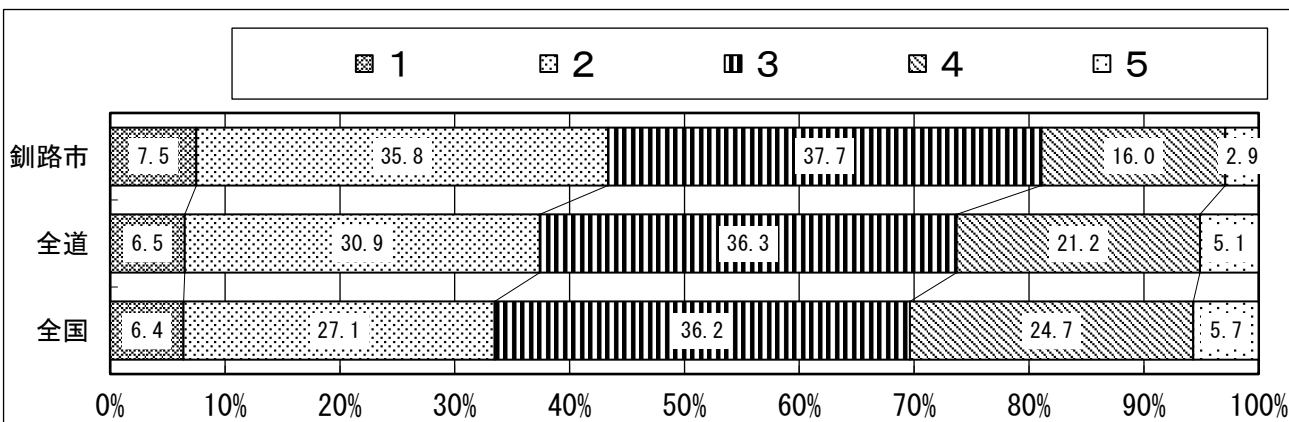
- 反比例の意味の理解を深めることができるようにする指導の充実
 - ・ 反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉えたり、それらの特徴を基に x の値に対応する y の値を求めたりする活動を取り入れ、反比例の意味の理解を深めることができるように指導しましょう。
- 確率を用いて不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断できるようにする指導の充実
 - ・ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断できるようにするために、起こり得る場合の数を基にして確率を求め、その確率を用いて説明する活動を取り入れるようにしましょう。
- 事柄が成り立つことについて、方針を立て、証明することができるようにする指導の充実
 - ・ 事柄が成り立つことを証明できるようにするために、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導しましょう。さらに、生徒が証明を書き終えた後に、その証明を振り返る活動を取り入れましょう。その際、筋道立てて説明ができていないか、根拠は明確であるか、記号や用語の使い方は適切かなどの視点で、証明を評価・改善できるように指導しましょう。

5 中学校英語

	生徒数（人）	平均IRTスコア	標準偏差
釧路市	851	472	99.1
全国（国公立）	46,645	499	108.1

※ 4月20日～4月24日に英語3技能（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）、4月24日～5月29日に英語「話すこと」を実施した学校から、統計的に抽出された生徒数

【IRTバンド分布比較】



※IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

【設問別正答率の概要】（◇正答率が高い設問◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇ 「ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する」設問（「聞くこと」アの内容）は、正答率77.4%（全国平均78.5%）である。〔問題番号2〕
- ◇ 「学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する」設問（「聞くこと」アの内容）は、正答率72.6%（全国平均76.0%）である。〔問題番号3〕
- ◆ 「インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」設問（「書くこと」ウの内容）は、正答率21.9%（全国平均27.8%）であり、無解答率は、20.9%（全国平均14.6%）ある。〔問題番号10（2）〕
- ◆ 「留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書く」設問（「書くこと」イの内容）は、正答率33.8%（全国平均44.0%）である。〔問題番号13〕
- ◆ 「学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く」設問（「書くこと」イの内容）は、正答率22.2%（全国平均27.8%）であり、無解答率は、19.0%（全国平均14.2%）である。〔問題番号14〕

【今後の指導について】

- 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉える指導の充実
 - ・ 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明など、内容に一貫性のある英語を最初から最後まで聞き、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみ捉われることなく、全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えることができるように指導しましょう。
- 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く指導の充実
 - ・ 様々な題材の英文を扱うことで、その内容に関して自分の意見や感想をもち、I thinkやI agreeなどの表現を用いて賛否や自分の意見を述べたり、because やsoなどの接続詞を用いて自分の意見や主張とその理由や根拠の関係を明確にしたり、first やsecondなどの副詞を用いて内容を整理して述べたりするなど、論点を明らかにしたり順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって読みやすく分かりやすい文章を書くことができるように指導しましょう。
- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く指導の充実
 - ・ 「導入－本論－結論」や「主張－根拠や具体－主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら全体として一貫性のある文章を書くことや、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことができるように指導しましょう。

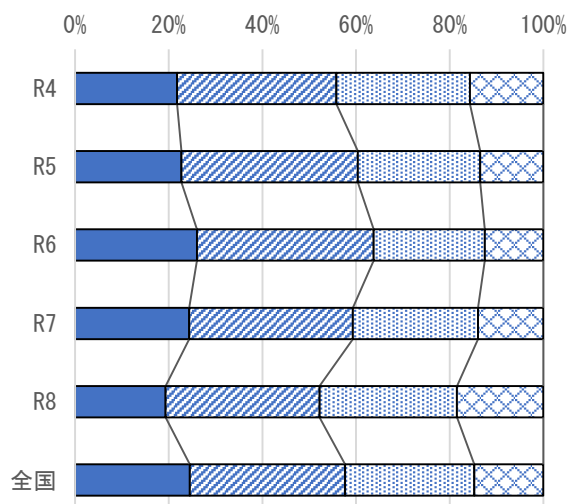
Ⅲ 児童生徒質問調査結果の概要

(1) 学習に対する興味・関心等に関する項目

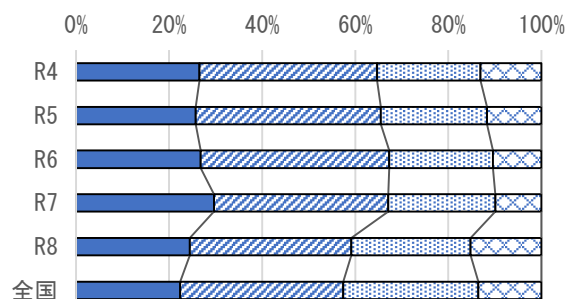
①「国語、算数・数学、英語の勉強は好きですか」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

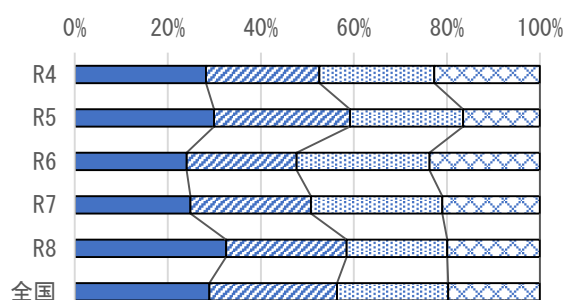
＜小学校国語 経年変化＞



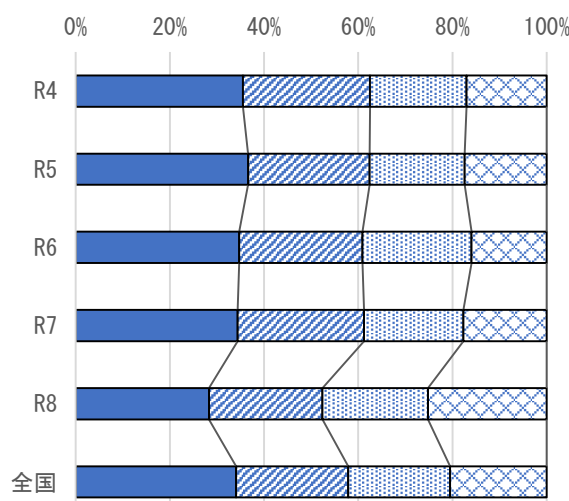
＜中学校国語 経年変化＞



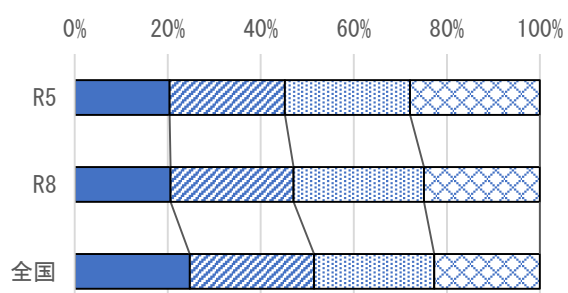
＜中学校数学 経年変化＞



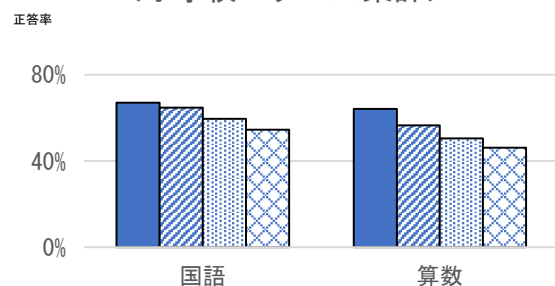
＜小学校算数 経年変化＞



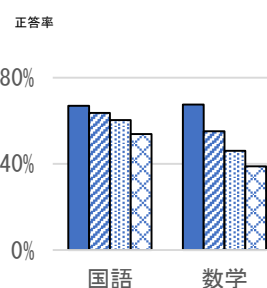
＜中学校英語 経年変化＞



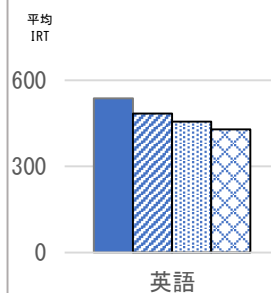
＜小学校 クロス集計＞



＜中学校 クロス集計＞



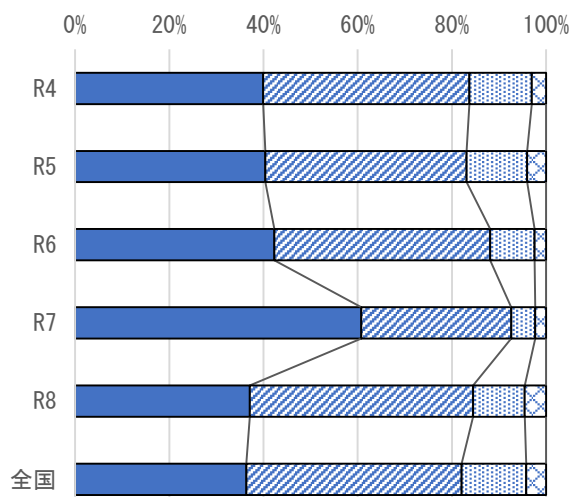
＜中学校 クロス集計＞



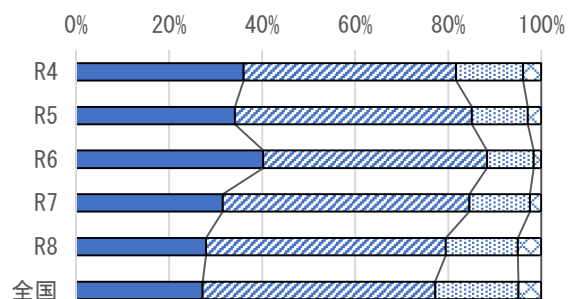
②「国語、算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

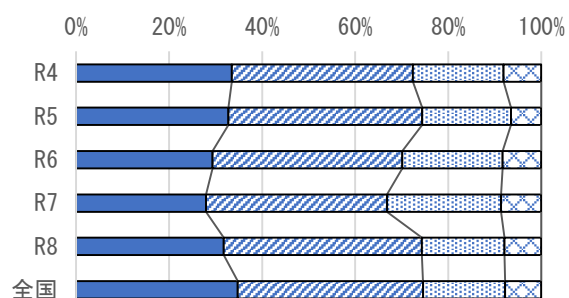
＜小学校国語 経年変化＞



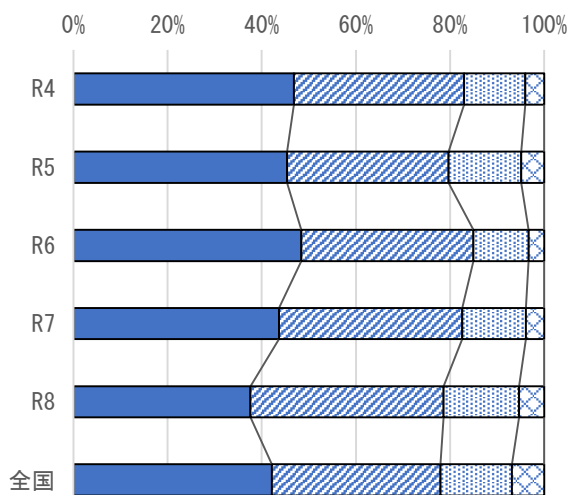
＜中学校国語 経年変化＞



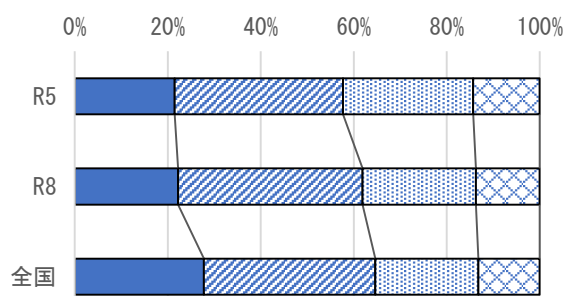
＜中学校数学 経年変化＞



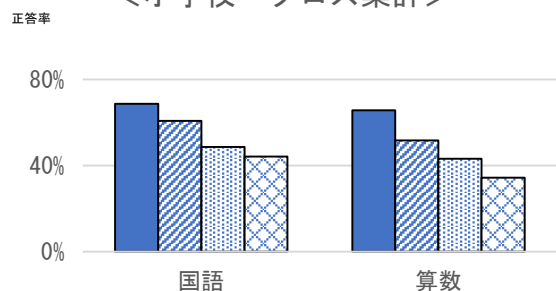
＜小学校算数 経年変化＞



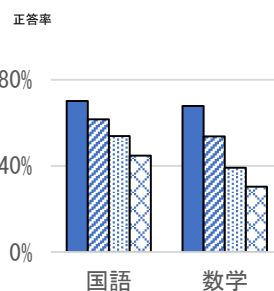
＜中学校英語 経年変化＞



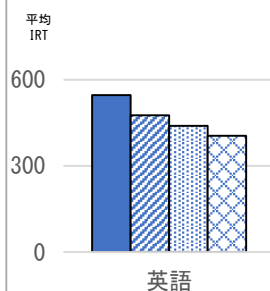
＜小学校 クロス集計＞



＜中学校 クロス集計＞

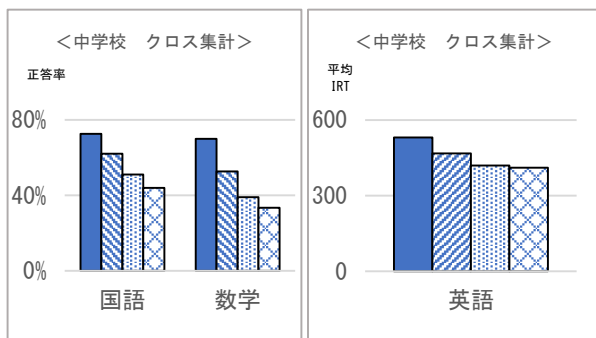
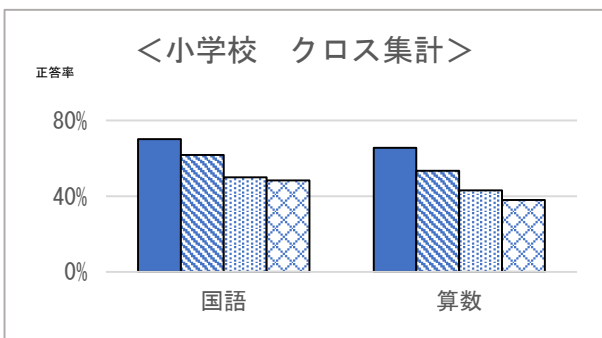
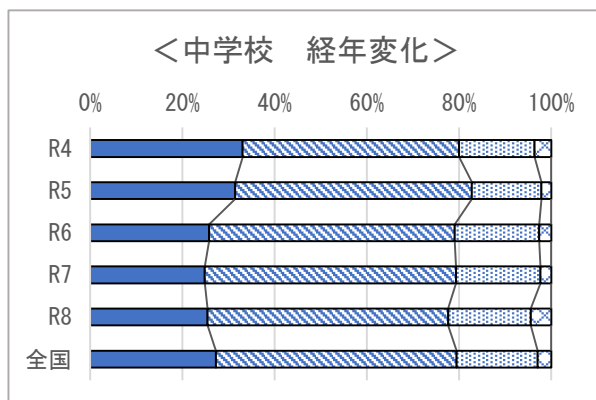
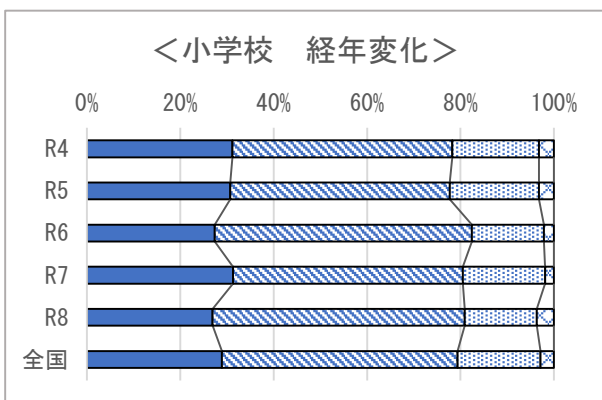


＜中学校 クロス集計＞



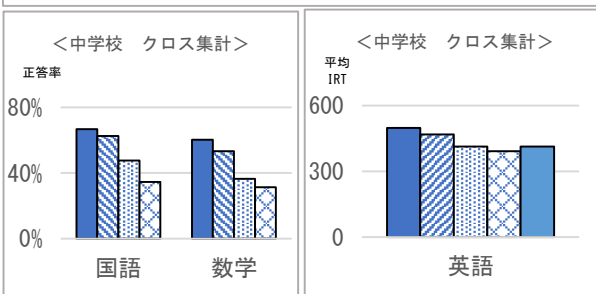
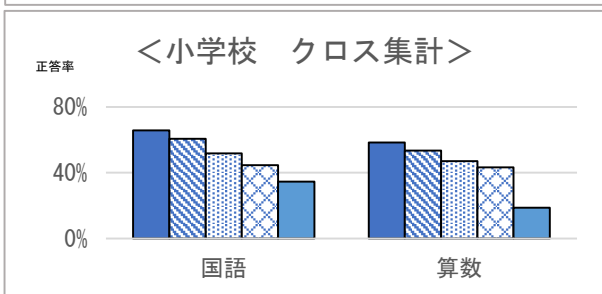
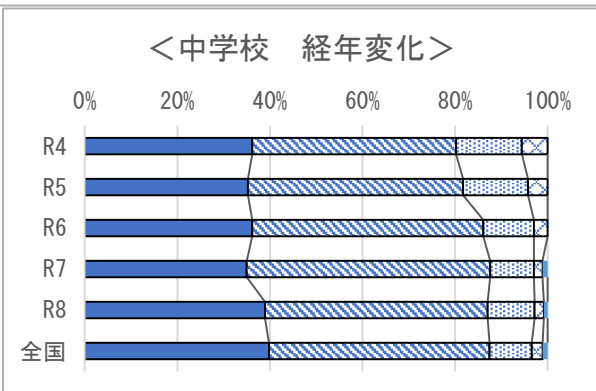
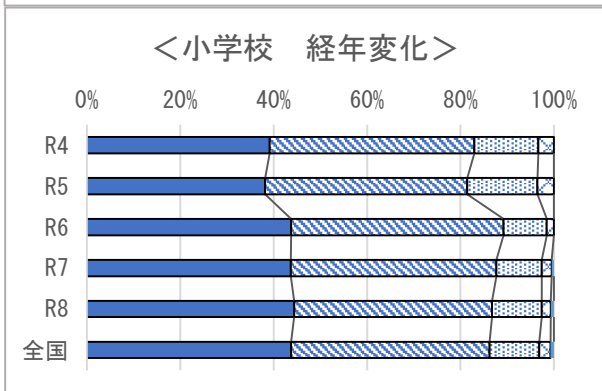
③「前年度までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか」

■当てはまる □どちらかといえば，当てはまる ▨どちらかといえば，当てはまらない □当てはまらない



④「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

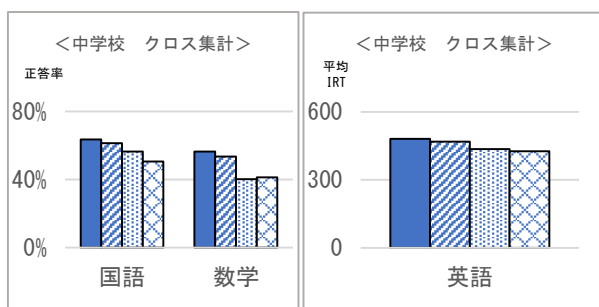
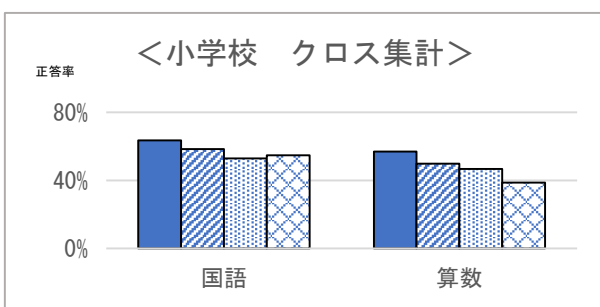
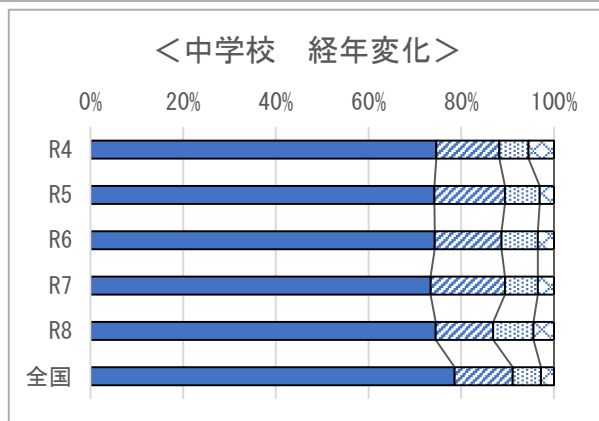
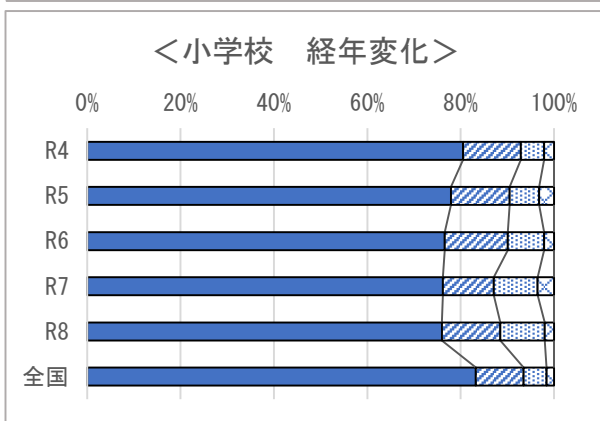
■当てはまる □どちらかといえば，当てはまる ▨どちらかといえば，当てはまらない □当てはまらない ■話し合う活動を行っていない



(2) 基本的生活習慣等に関する項目

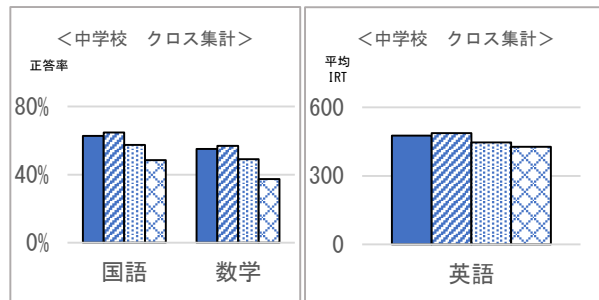
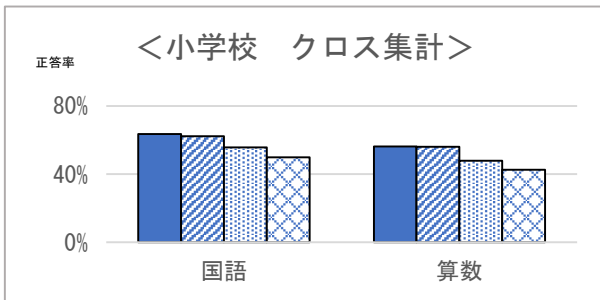
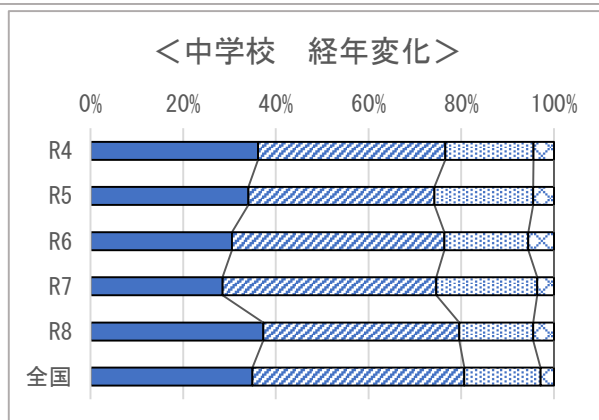
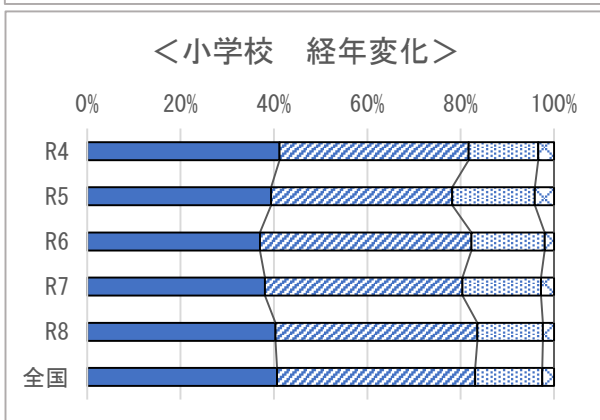
① 「朝食を毎日食べていますか」

■ している ▨ どちらかといえば、している □ あまりしていない □ 全くしていない



② 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」

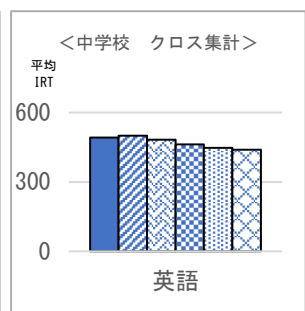
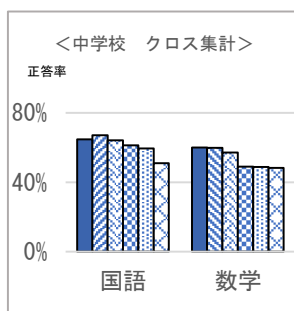
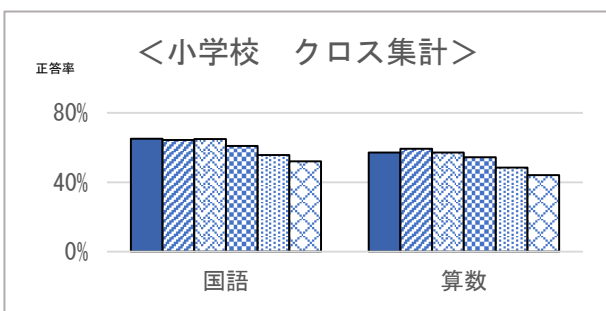
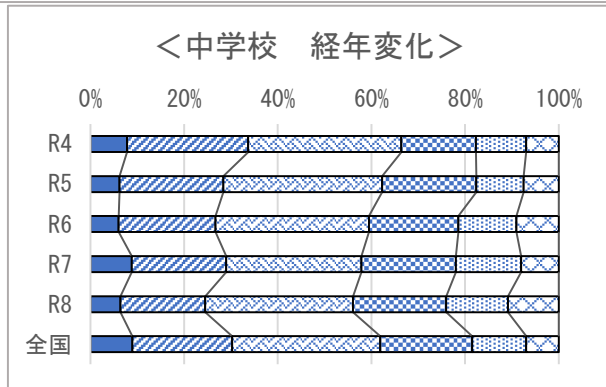
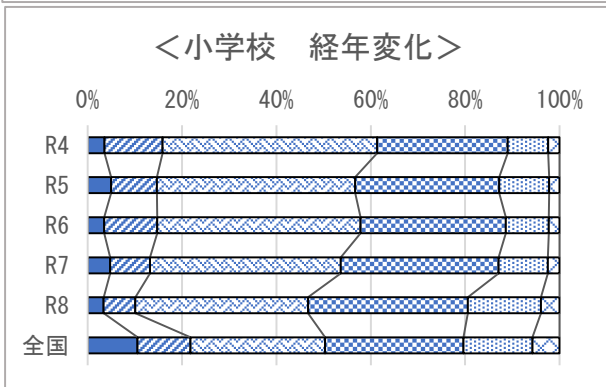
■ している ▨ どちらかといえば、している □ あまりしていない □ 全くしていない



（３）学習習慣・学習環境等に関する項目

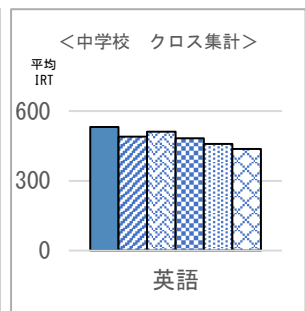
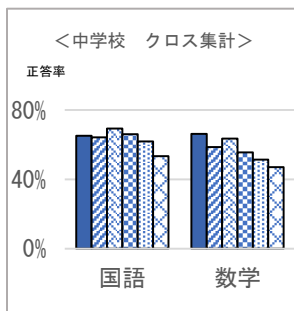
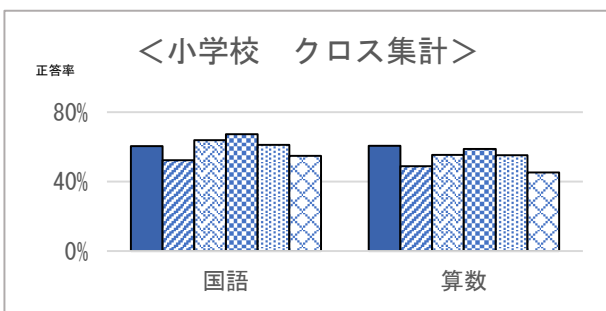
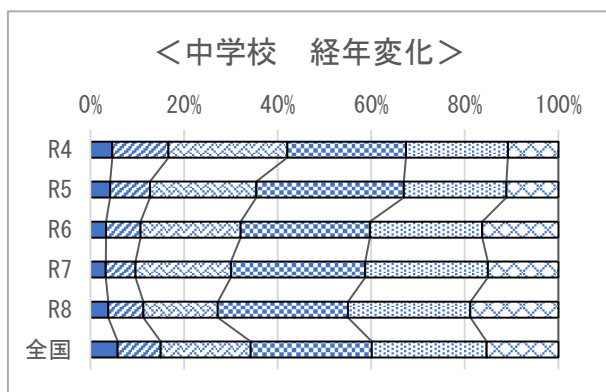
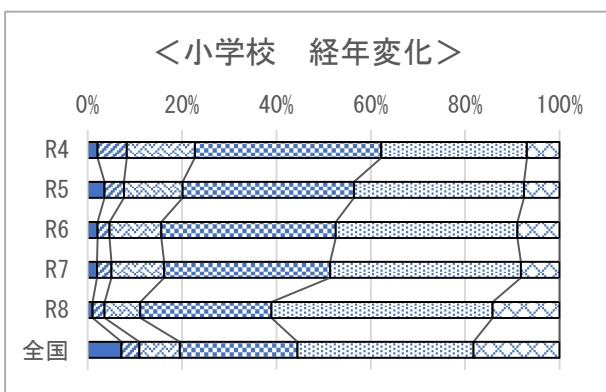
①「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

- ☒ ３時間以上
☒ ３０分以上，１時間より少ない
☒ ２時間以上，３時間より少ない
☒ ３０分より少ない
☒ １時間以上，２時間より少ない
☒ 全くしない



②土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

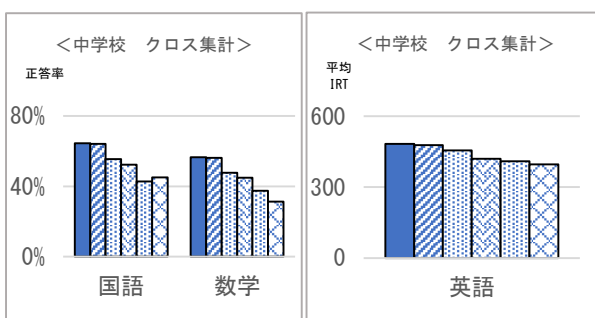
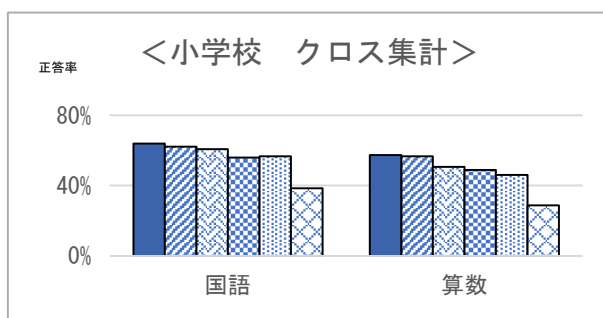
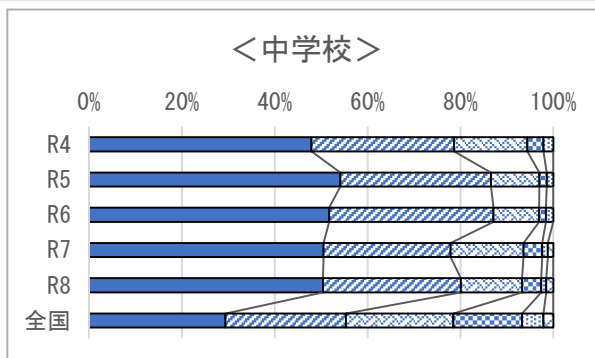
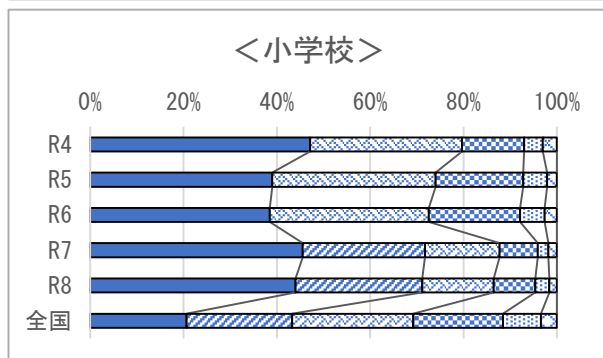
- ☒ ４時間以上
☒ １時間以上，２時間より少ない
☒ ３時間以上，４時間より少ない
☒ １時間より少ない
☒ ２時間以上，３時間より少ない
☒ 全くしない



(4) ICTを活用した学習状況に関する項目 (R4以降)

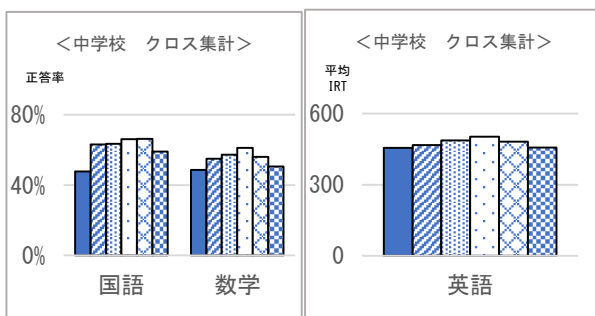
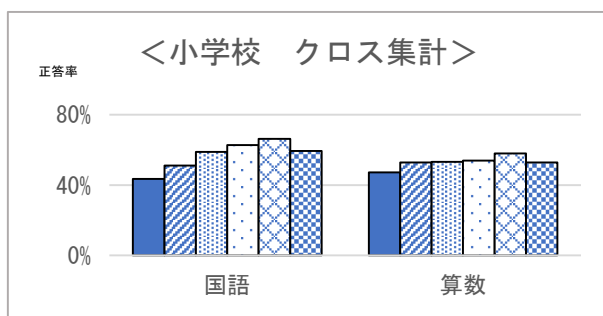
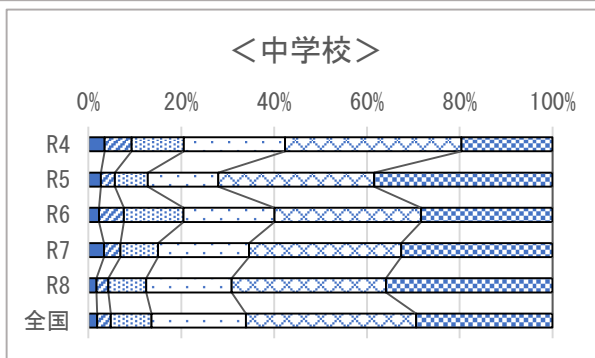
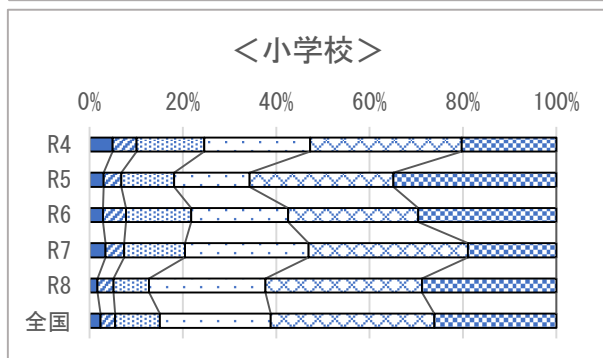
①「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

■ ほぼ毎日 (1日複数) ■ ほぼ毎日 (1日1回) □ 週3回以上
 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 □ 月1回未満



②「学校の授業時間以外に、普段 (月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか (遊びなどの目的に使う時間は除く)」

■ 3時間以上 ■ 2時間以上, 3時間より少ない
 ■ 1時間以上, 2時間より少ない □ 30分以上, 1時間より少ない
 ■ 30分より少ない ■ 全く使っていない

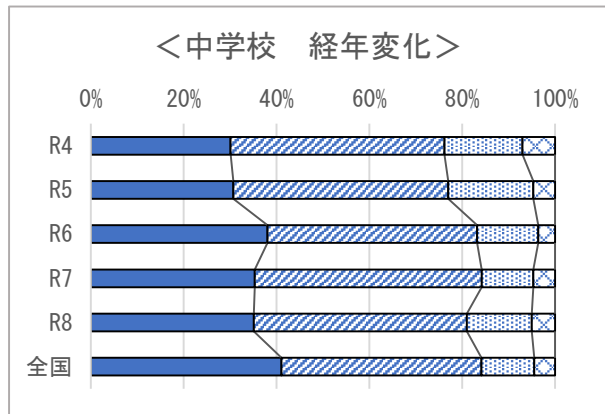
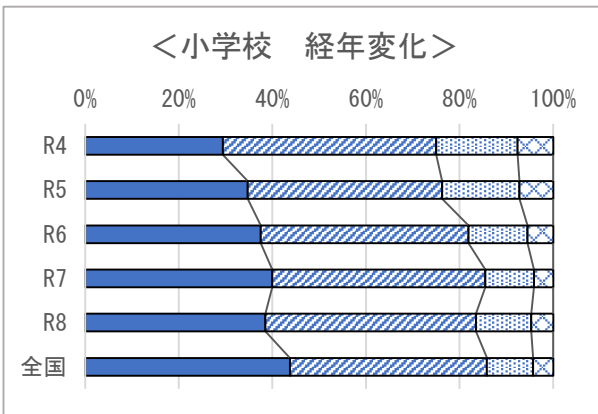


(5) 挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感等に関する項目

①「自分には、よいところがあると思いますか」

■当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない

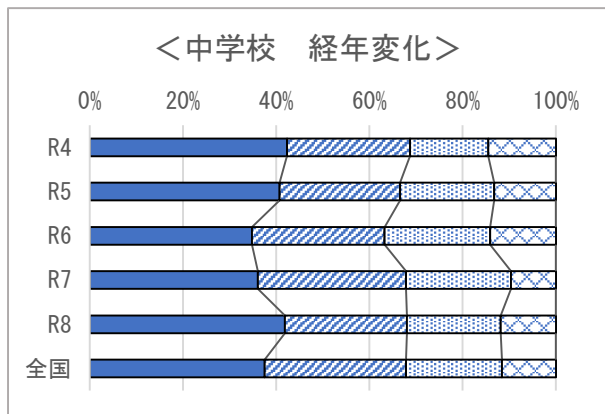
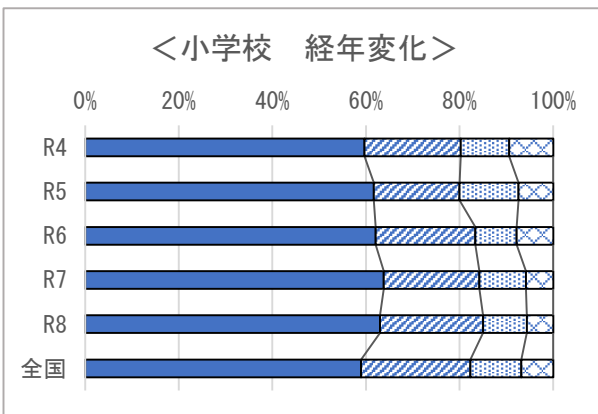
■どちらかといえば、当てはまる
□当てはまらない



②「将来の夢や目標を持っていますか」

■当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない

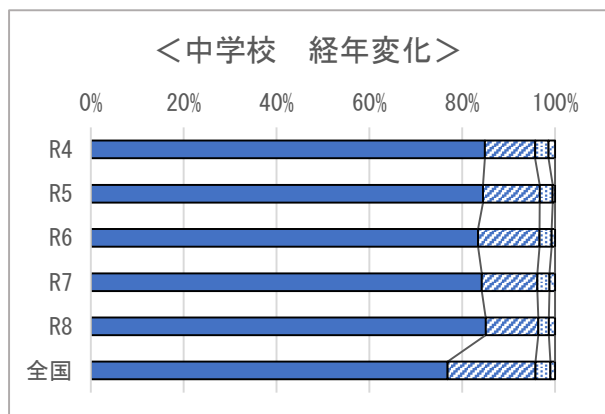
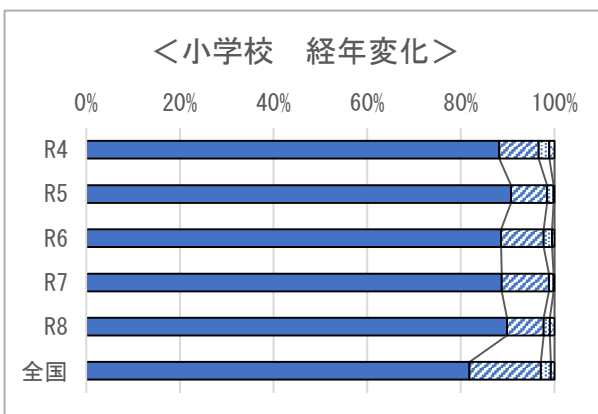
■どちらかといえば、当てはまる
□当てはまらない



③「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

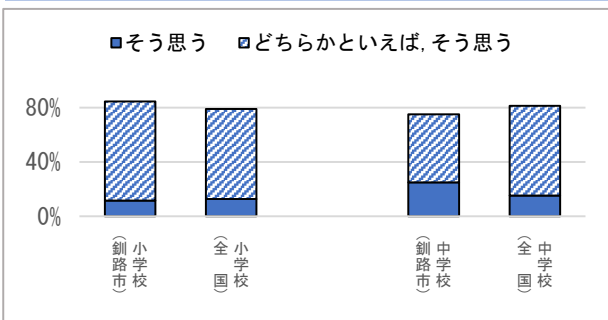
■当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない

■どちらかといえば、当てはまる
□当てはまらない

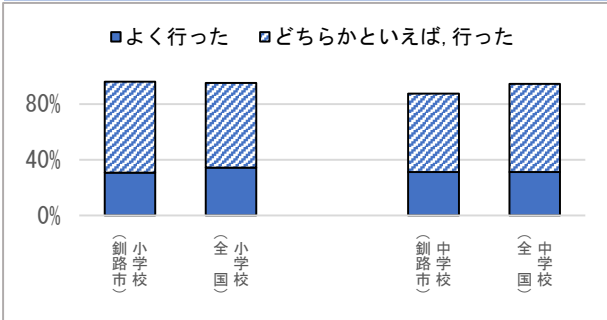


IV 学校質問調査結果の概要

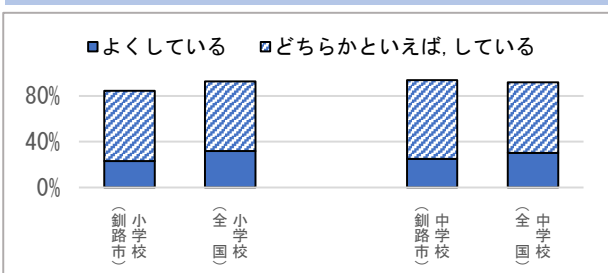
①「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる」



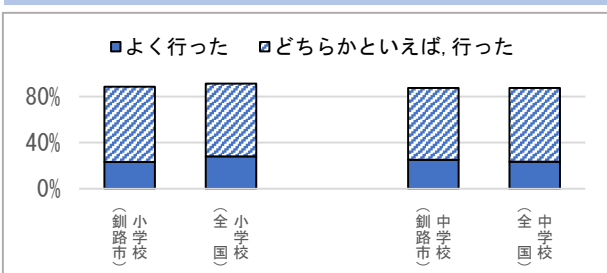
②「学習指導において、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」



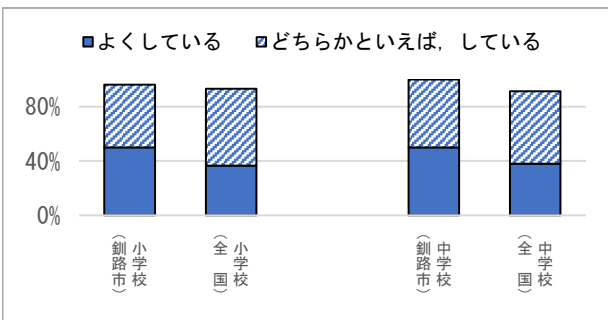
③「学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている」



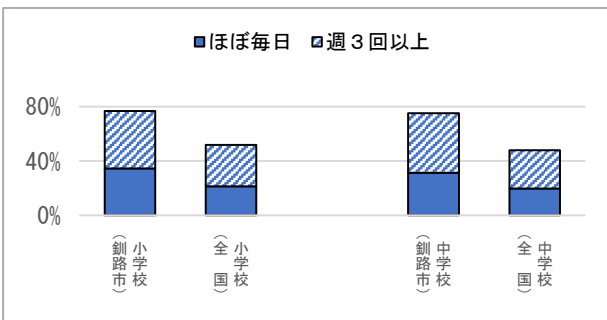
④「学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した」



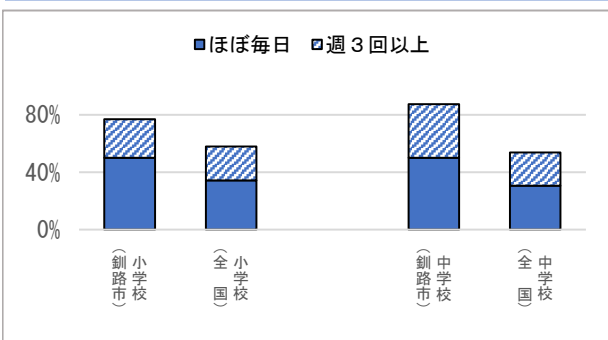
⑤「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」



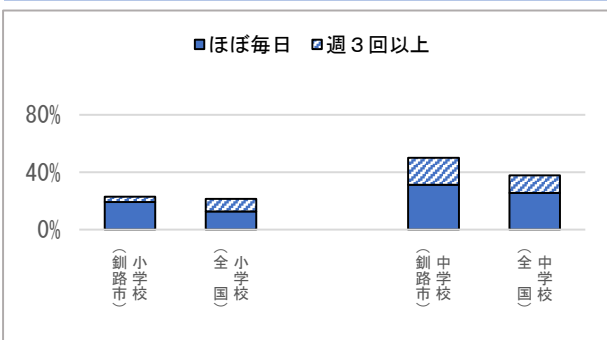
⑥「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」



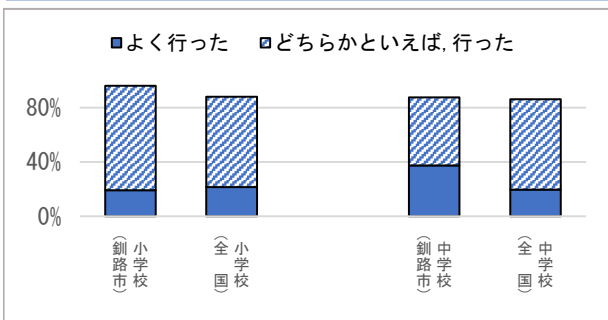
⑦「教職員と児童生徒がやりとりする場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」



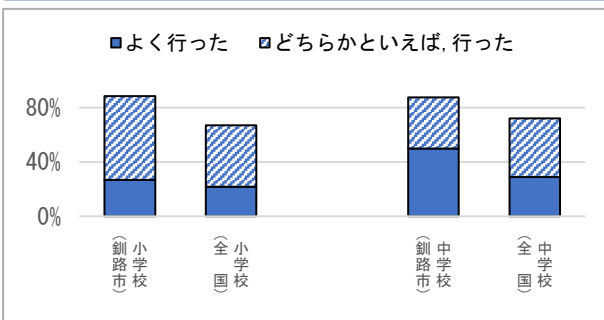
⑧「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童生徒に対する学習活動等の支援に活用した程度」



⑨「前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」



⑩「前年度までに、近隣等の小学校（中学校）との、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った。」



V 本市の主な傾向（児童生徒質問調査及び学校質問調査より）

- 「勉強は好きか」の質問について、中学校国語、数学において、肯定的に回答した生徒の割合は全国平均（以下、全国）を上回っている。一方、小学校国語、算数、中学校英語において、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国を下回っている。また、肯定的に回答した児童生徒ほど、教科の平均正答率や平均 I R T スコアが高い傾向がみられる。
- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問について、小学校では全国を上回っているが、中学校では全国を下回っている。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」の質問について、小学校では全国を上回っており、中学校では全国と概ね同等である。
- 「普段（月曜日から金曜日）の学校の授業時間以外に勉強する時間」について、小・中学校ともに「2 時間以上」勉強している児童生徒の割合は全国を下回っている。また、中学校において、「30 分より少ない」と「全くしない」を合わせた生徒の割合は 23.9% に達している。
- 「PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使う程度」について、「ほぼ毎日」または「週 3 回以上」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を上回っている。
- 「自分には、よいところがあると思うか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国を下回っている。経年変化を見ると、小・中学校ともに肯定的に回答する児童生徒の割合は増加傾向にあるが、令和 7 年度と比較するとわずかに減少している。
- 学校質問調査における「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」の質問について、小・中学校ともに肯定的に回答した学校の割合は全国を上回っている。
- 「ICT を活用した学習状況」について、「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」または、「教職員と児童生徒がやりとりする場面」において ICT を使用する程度は、小・中学校ともに全国を大きく上回っている。
- 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」の質問について、小・中学校ともに肯定的に回答した学校の割合は全国を上回っている。
- 「小・中連携」における、教育課程の接続や共通の目標設定に関する取組について、小・中学校ともに肯定的に回答した学校の割合は全国を大きく上回っている。

〔釧路市が目指す授業〕

子供たちが主役の 「学ぶ意味と学ぶ楽しさを 感じられる授業」

令和の日本型学校教育

「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の
一体的な充実



学習指導要領

主体的・対話的で深い学びを
実現する授業

子供たちが主体的に学ぶ

子供たちが多様な他者と関わりながら学ぶ

子供たちが確かな学力を身に付ける

釧路市が目指す授業



子供たちが主役の
「学ぶ意味と学ぶ楽しさを
感じられる授業」



協力し合い

新たな学びや教材との出会い

相手意識



励まし合い

学び合い



キーワード

認め合い

「あい」あふれる授業の展開



教え合い

助け合い

○○愛

話し合い

私(I)は～

相づち
（「なるほど」等）

高め合い

聴き合い